



JR奥羽本線 第一谷地踏切の拡幅を

三宅和広 議員

まちづくり懇談会で、JR奥羽本線第一谷地踏切の立体交差化などについて数回にわたり要望が出されている。地域住民の方がこの踏切が非常に危険であると認識していることの表れであると感じる。

残念なことに実現には

歩道がない踏切を延べ260人の四中生が毎日渡っている。しかも車道部分も非常に狭い。

至っていないが、要望の事業化が困難な理由として多額の費用と時間を要することや、住宅の移転等の問題が挙げられている。

しかし、踏切部分だけの拡幅であれば、そうした問題は発生しないため実現の可能性は高いのではないか。

山本市長 三宅議員が提案している踏切部分のみの拡幅が可能かどうかを、現在、JRと県に確認中である。

この踏切は山形新幹線が運行していることや直近に交差する道路があるという法律がある。拡幅の必要性を強く訴え、この法律に基づく改良の指定を受けて、踏切部分だけを拡幅する事業の推進を県やJRに求めていく考えはないか伺いたい。



▲幅4.5mしかない第一谷地踏切

いったことが問題となりそうであるが、その回答を待ちたい。

小笠原建設部長 今回の踏切道改良促進法の改正で具体的な改良方法についての合意がなくても、改良すべき踏切道に指定できるようになった。しかし、事前協議がないままに指定されても実際の改良事業がうまく進まないことが懸念されるため、JRや県と協議しながら進めていきたい。